

★私の意見

町内福祉への たゆまぬ努力を

西村 義一
△大石南町町内会代表△



大石南町の戦前は白砂青松の地であり大石川は白川とも呼ばれ水清く点石はあくまで白く水は通行人の飲水にされていた位です。夏は葺合区全小学生の海水浴場、また大石川から岩屋の浜辺にかけては元県立商業学校、神戸高商、または大阪商船会社、日本郵船会社或はO.B等のボートレース場ともなり、また外国人のヨットハーバーもあり、海岸沿には日本で有名な酒造家の酒蔵が軒をならべた生活環境の最良の地であったところです。

戦後原口市政により産業優先政策を至上の号令とし日本石油、小野田生コン、出光興産、続いて神戸製鋼濱浜工場等全市重油使用量の六パーントを神鋼一社にて消費する巨大なる工場の誘致を一方的にせられ、それに列んじて摩耶阜頭コンテナ輸送用荷車の操車場の新設により町内よりの南方全面の交通を遮断せられ、北側全面には国道四十三号線並に神戸高速道路、また東側は大石川により西側にのみ開放せられた世に言う箇車の谷間に人为的に孤立化された地域に騒音と振動と煤塵の公害と闘っている大石南町であります。我々町内五百五十世帯の会員は市の此の地に対する行政がどうであろうとも心を和して町内福祉に満一するため奉仕しております。四十三号線国道の下に有る唯一つの北に通する地下道も毎日欠すことなく婦人グループにより清掃し、交通安全、文化厚生、保健衛生、防火防犯の諸事業も町内に住む人々のため全員自らの福祉を念願するため社会奉仕事業を行ない、よくぞこの町に住みついてよかつたと思う町作りをしております。また私達は老人憩の家の建設のために全力をあげて各方面、特に神戸市当局に對して陳情懇願することは私の終生の願いです。貧困家庭の老人、雨の日も晴の日も寒い日も外に出るよう言われる老人、三三五五相寄り焚火を囲む老人に憩の家を我々の手で各方面に働きかけ、日当りのよい部屋で男女の老人がいそいそと集まり碁盤を開む老人、寝ころんで話し合いでいる老人、楽しげに茶を呑む老人の絵模様を夢見つづけて当路の人々に腰を曲げ頭を下げるづけている私達であります。

White Haven.®



□神戸にホワイトヘブンの
あるお店

SANOHE

元町2丁目 Tel 331-4707-8

Salon E'legant

SANOHE

トアロード Tel 331-1952

東京渋谷東急百貨店本店2F
特選サロンサノヘコーナー
神戸そごう3F 特選サロン
サノヘコーナー

大阪阪急百貨店サノヘコー
ナーは11月19日より2F
ハンドバッグ小物売場に移
転しました。



GRAN DEPAR CO., LTD.

株式会社 グラン・デパール

芦屋市業平町70芦屋川アーバンライフ606号

TEL. 0797 <31> 8 2 3 2

隨想三題



カット／河本和子

最近思うこと

西本昭太郎

（詩人）



「キミは乙女座かな」

とボクが声をかけるのは、きまつてハネハネ族／ハネッカエリ／の皇女に限るのである。何故なら不毛の鬱を宿し、しかもアクチユアルであり、現代そのものだからである。そして愚かにも、丑であるか、寅であろうかなど更に追加註文する。二昔も数字を編む仕事をしたボクにとって相手を「一、三才老いさせて、そのゲキリンに

わせてしまう。
西歴でなく、ハネハネ族は昭和二十五年以降という。その度に昭和ヒトケタ生れのボクはダウンする。事ここに到るとおそらくて、ふれたくなつたものにボクはふれざるを得ない。即ち!! この国の年令別人口ウエイトである。昭和45年国勢調査によると次の通りとなつてゐる。20才以下が31・7%、20代が20%、30才代が16・2%、40才代が12・7%である。30才以下が実に67・9%を占めている。このことはとうとう流れれる日なのなかにあって、流される側のカテゴリの中にボクが入つてゐることを意味し、きびしい現実である。

かつて人の世を予知し、人生いかに生きるべきか、自らを問うた

10代の後半、主義、芸術、宗教のうちボクがそのひとつを選んだとしても、深く年令を推積させたい年令による実感は身にしむおもいがする。
戦後、鎮國状態から放たれ、30年後半からの高度な成長によって起つた産業間格差の縮少、所得の向上／名目に近い／少産少死による過保護、男女同位、失業皆無、表面は実に華かな、この国の現状あるときボクはこの国にあつては

△文明は人間の外からやつてくる▽と詩に歌つたことがある。現在そいつは消費に移り、烈しい消費文明？はインフレ昂進策と、企業のすさまじいPRによつてさら

にエスカレートする。しかし誰もこの時の流れをとどめることはできない。あの三島由紀夫でさえも一彼は己のなすべきことをすべて為し、自己とのかかわりから超えたわけだが一ボクは幸いにも彼ほどの仕事をしていないので、密に自己とかかわりあつてゐる。流動かならず流動ならずと思うここで。

さて恣意によつて繰返される消費の果ての不毛を負うものと、消費を媚薬のごとく使用するものとの交錯の上生れるものに今や期待する他はない。それは与えられた喚起せしめられたものにヘキエキし自ら求めるもののために、文明

は高度なものが要求されるとおも
う。

詩においてもイメージの高さ、深さや、言葉の美しさ、詩の濃度が求められる。しかし現在の詩はそのひとつさえも満たしていないものが殆どである。それを埋めるために心ある詩人はひそかに言葉の刃を磨く、深く年輪を堆積させたことによつておこる日日の大きさ、そして座してなお展開あることをボクは今切実におもう。未知な明日をわがマグサとして、大きしたこととはこれからもおこるまないとおもつても、なあ。

いう。当時はこんなにちゃんとしていた社ではなく、板がこいとねやだけのかんたんもので、中には深い大きな穴がほってあり、こども心に大へんぶきみなところだった。そうである。人形は、身代りに災厄を托して祓う人かたとかあまかづなどいうかたしろがそのはじめだということと思いあわせて、ここは、きっとその昔、祓いのあとのかたしろをあつめるところだったのではないか、それが信仰の対象から愛玩物へ変化していった人形をもおさめるところに移行していくのではないかと、私たち

が海へかつぎ出し、流すのだと聞いたことがある。雪解けの水にひつそり流す鳥取の流しひなとは対照的な海の民らしい流しひなのようである。

そのいずれもが、人形のむざんをさらすことなく葬ろうとした生活のちえともいえる行事に思われてならない。人形の発生のおもかげがうかがえることも貴重なことである。

が、土に還ることを願つて野山に於けることを許されなくなつてきていの都市の現在未来はと思ひくらしていた矢先、京都の宝鏡寺に人形塚があるとき、一日尋ねてみた。ここは門跡尼院であつたため、入山された皇女方の人がたくさん秘藏されていて、そのことから人形寺とも呼ばれる寺であるが、私は近ごろのものらしい人形塚には、心ひかれた。御所人形の彫りの浮びあがつた塚はご門の右側にあります。十月十四日、人形供養の日には、総供養もいたします。」

各地にまだ残っているかもしれない在来の民俗行事は大切に残していきたいものだし、一方また、

人形供養のことなど

竹田
道子



雨の日、ごみといつしょにぼうり出されていたミルクのみ人形を見てからというもの、各家庭で不用途になつた人形のゆくえが、ひとく気がかりになつてゐる私である。そんな私を、この秋のはじめ、友人のMさんは、和田山町宮田といた。本殿わきの小さなお社は、Mさんが育つたころ、村中の古くなつた人形を納めるところだったと

26

現代にふさわしい新らしい“民俗”を生み伝えていきたいものとも思うのである。

戦後からの元町に思う

麻生 一郎



△新光ギャラリー

終戦とほぼ同時に、一家の疎開先である、鈴鹿市に復員、定住のつもりでしたが、やはり神戸から離れ難く、月に一、二度は、都会恋し、旧知をたずね来神していました。

当時の元町、三宮界隈は一応人通りはあるものの、穴ボコだらけ店などろくに見当らない荒廃ぶりでした。只、ガード下の開市だけは三国人の勢力で殷賑をきわめていましたが、まるで裸の人を見る様に寒々としたビルがあるだけ。そのわずかに戦災を免れたビルも米軍に接收され、大丸もP・Xに神港ビルも軍用。又、下士官クラブのあつた大丸前のニッケビルのあたりをショコレート欲しさに若い娘がぶらつくのですが、それが度重なると商売女のように中へ引張り込まれるといった事もありました。敗け戦をよく知らない日本

人は、そうした類の幾つかの事件により、実感として敗戦を思い知らされていました。

しかし、そうした日々が過ぎて

来るのが当り前であった米兵が帽子を取って入ってくるようになり、入港する船が日本の国旗を掲げているのを見た時、何ともいえない感動が胸を熱くさせました。この様にして日本は建て直されてゆき神戸も亦、再興をはじめました。

その頃、神戸を象徴していたのは、今もベトナムなどの写真に見られる、自転車のサイドに人力車をつけたようなリントンタクでした。元町通りといえども聞こえはよろしいが、この新光商会とマキタ毛皮店、前に日本楽器の焼け残りの倉庫、その横に、トントン葺という板葺のあわもりの一杯呑み屋、こんな有様で通る人も少し。少ない客を拾うため、道に水を打つにも反対側に沢山水をまけばねていなくてこちら側を、店に近く人が歩くと考えたり、とにかくそのよう

序々に、本当に序々に元町も生き返つて来ました。当時元町は、新興の意気に燃えるセンター街の勢力に押されがちでした。トーア筋と京町筋の間を占めるセンター街は、大丸方面への通り道に当り

立地条件に恵まれ、人をグングン集めていました。元町が立ちおくれている、との声が高く、私達も

通行人の数を調査したりしましたが、人數的には大差ないのでですが

市計画が進められ、さんちかタウ

ン、サンプラザが造られるとセンター街は、ヤングでにぎやかな街になりましたが、客筋では元町、というようになつてきました。古美術という特殊な商売は元町でなく見えるというのが事実ではあります。最近になり新しく都

お客様が何を求めて歩くか考えて育つてゆかねばならないよう思っています。神戸に与えられた利点は西欧文化が外交官や使節団の様な作爲的なものでなしに、生の姿で入つてくる事で、これは素晴らしい事だと思います。持ち込まれるのも至つて自然なら、受け入れる側もこれにおとらず自然で、あたかも雨水が地にしみ入る様に、人に街に、何の抵抗もなく吸い込まれ磁味となります。これから街づくりに、この恵まれたものを如何に取り入れるか、その有難くも準備されているものを見れてはなりません。日常生活を振り返り、将来を見つめる事は、人間生活にも街の成長にも、とても大切な事ではないでしょうか。

□あるつどいその足あと

エウフォニカ 管弦楽団のこと

谷藤 雅也

（代表者）



人間環境都市宣言記念式典での演奏

当楽団の名称「エウフォニカ」とは、イタリイ語で「調和のとれた快いひびき」という意味です。この名称を選んだのは演奏も楽団員の人間関係も調和がとれるよう成了。當時音楽教育で鑑賞の月でした。當時音楽教育で鑑賞の

面が重視されるようになりましたものの、児童、生徒にナマの音楽をきかせる演奏団体がなかつた時期だけに、先ず学校向けの演奏活動に着手することにし、友人や知人、各方面からの新進の演奏家約三十名が集まり猛練習を重ね、二ヵ月後の六月に大阪市立十三中学校に出演したのが、本楽団の最初の演奏でした。

翌昭和三十九年九月に神戸市民劇場第三回公演に神戸土曜会合唱団、コーロ・ポルテニオ、神戸中央合唱団のオーケストラ伴奏に出演したのを機縁に、それ以来昭和四十年より神戸国際会館における神戸中央合唱団、コーロ・ポルテニオの合同による「メサイア」に出演、例年「メサイア」に出演しております。

加うるに学校の音楽鑑賞会の出演も年毎に増え、その地域も拡がり西は姫路市から神戸、阪神地区大阪市、大阪府下、奈良県に及ぶ

よい演奏をするためにはきびしい練習を必要とするし、出演地区の拡大は相当体力も要求されますので、いわば重労働になりますが、それを克服できたのは何といつても、楽団員の平均年齢二十五歳という若さと、よい演奏をした

ときの何ものにも代え難い大きな喜びと、音楽を愛するひたむきな情熱だと思います。

小学校で演奏しているときなどども達のつぶらな瞳を見ていると身体のえらいこと、経済的には酬われぬことなど、そう問題でないとの声もきかれます。

思えば結成以来はや九年、管弦楽団の維持は殊のほか難しいといわれるのに、とも角いいろんな苦労に堪えて、ここまで歩みを続けてきたことは、それらの苦労がよりよき発展のための大きな基礎固めになつたことと思ひます。

本年七月二十一日には県民小劇場で始めての自主演奏会をもちましたし、九月二十八日には神戸市主催、国際会館での「社会福祉大

会」十月十八日には、同じく「人間環境都市宣言記念式典」に四十三名のメンバーで出演しました。今後なおチーム・ワークをとりレパートリーを拡げ、一層の発展を目指して進みたいと思つております。結成以来団員諸君の真摯な意欲と、いつも温かいご支援をよせてくださる方々に深く感謝申しあげます。

連絡先・芦屋市宮塚町73番地
TEL 0798・23・2743
エウフォニカ管弦楽団事務所



そばの味
それは日本の味でもある
その味わいに織りなした空間
直線の構成で色を押えた白木造りに聚楽の壁
日本人の心のふるさとはやはり粋と寂にあるのだろう

神戸三宮 秀味街
東京そば 正家
入船KK設計・施工
担当 高地 洋

ショールームに関西初のミュージックルームを設けました
練習に演奏に、レコードコンサートに、録音に……ご利用下さい

in リンテリソ リンコウ

企画・設計・施工のオールマイティ
入船株式会社 ☎ (078)851-3191
神戸市灘区友田町5-2-2
グランド六甲ボウル・2F

オリンピック余話

古林喜楽 〈広島商科大学学長〉



カット・小西保文

今年のハイライトになるであろう、水泳の金メダルを連載してきたので、最後に、オリンピックこぼれ話として、この隨想をおさめることにしよう。わが大学の田口君が、百米平泳で金メダルをせしめてくれたころは、ミュンヘンはオリンピック・ムードで、湧きかえっていた。会期はまだ半ばだというのに、世界中から押しかけてきた観衆は、既に東京やメキシコのときの人数を突破しこのまま続けば四百五十万人に達するであろうといわれ、競技では世界新記録が次から次へと続出して、この数でニュー・レコードをつくり、入場券の闇値までもが十一倍に暴騰して、三つの新記録が出たと、新聞は報じていた。

街は街で、二年前のミュンヘンとは、すっかり変わってしまっていて、駅前の本通りを見すごしたりした。店は店で、はなやかに飾りつけられ、一大お祭り騒ぎであった。素晴らしい地下鉄が出現して、方角を見うしなつたりした。道行く人は人種の展覧会のようで、ドイツでドイツ語が通じないことが、しばしばであった。外国のなかに外国ができたような思いがした。話しかけたらドイツ語

が通じない。聞けばポルトガル人であった。英語ならわかるかと思つて話しかけたら、又通じない。今度はギリシャ人であった。

タクシーの運ちゃんに、話しかけたら、英語で返事する。どこから来たのかと聞いたら、ドイツ人だという。ドイツ人なら、ドイツ語でしゃべつたらどうなんだ。ドイツくんだりまで来て、英語なんかしゃべりたくないよといつたら、ようよう母国語にもどつた。

八月二十九日、ミュンヘンに着くなりタクシーに乗つた。運ちゃんがおめでとうという。つい今ラジオで、日本の田口が百米平泳で世界レコードを出しましたよ。決勝前日の準決勝で既に世界レコードを破つていたらしい。その日は新聞を買ひそこねて、記録を見なかつたのであるが、あとで田口君に聞くと、五分一秒という大記録であつたらしい。予選ではアメリカ勢の方が六分をちよつびり切つたらしいのであるが、準決勝のこの田口君のタイムには、彼等もたまげてしまつて、田口には勝てないと思つたらしい。

平泳の二百米の方は、はじめから金は無理だと、とつくに承知していたので、銅を獲得するだけよかつたと思つたのであるが、アメリカ勢の方は逆に、百米で驚異的な四秒台を出したのだから、これ又田口君には勝てないと思つていたらしい。それで仕合のすんだあと、彼らは田口君に、なぜ君は全力を出さなかつたかと、いぶかつて聞いたらしい。

オリンピック・ムードで、物価も暴騰した。一晩泊まるだけのモーテルの宿費が、なんと一万五千円であった。ミュンヘンを離れてから、ボツフ



古林喜楽さん

ムの一流のホテルへ泊つたら、三千円であつた。タクシーの運ちゃんが、ミュンヘンの物価は、価格の概念をこえてゐる。あんなのは無茶苦茶ですよ、ミュンヘンで買ひものなんかする者は、阿呆ですよと、囁んではき出すようにいつた。価格の概念に入らないといふ表現は、ドイツ人らしいなアと思った。私はあまり買ひものをしなかつたので、阿呆の程度もおかげで少なくてすんだらしい。ミュンヘンを去つた翌日、センセイショナルな一大ハプニングが勃発して、又々オリンピック・ニュー・レコードが出現した。田口君が金メダルをもらつたときのあの笑顔は、天下一品の全く素晴らしいものであつた。

ところがアラブゲリラにイスラエル選手団の人質が全員いにえになつたあとのことである。五十杆競歩で優勝した西ドイツのカンネンベルクが金メダルをもらつたときの顔はまさに正反対の、つらいというか苦いというか、目の周辺がしわだらけで、嬉しさが見られない。彼はふるさとの祝賀行事をすべて辞退したという。明暗織りませたこんなオリンピックは、史上唯一のものになるのではなかろうか。

これにめぐりあえた私の今年の運勢も、これ又強かつたのかも知れない。

海側・山側

文・伊丹公子 〈俳人〉
写真・伊丹三樹彦 〈俳人〉

幼時のわたくしにとって、神戸は夜明けに着く街であった。そのころ高知に住んでいて年に数度、母の故郷の京都を訪れるとき、高知航路の船からまず下りるのが夜明けの神戸港であつたから。入港の銅鑼が鳴つて走り出た甲板から見る海霧籠りの港は、いつも見知らぬ異国のように奇妙な新鮮さで胸に迫つた。

のちに阪神間の住人になってからもその思いは永くのこつた。

いまはわたくしは神戸へは船で着かないで阪急電車で着く。電車が神戸に近づくと急に裏山が身に附つてくる。海光が目に沁む。一気に山と海の懐しさが溢れるのが神戸の特徴である。神戸っ子は場所の位置を指すのに、海側、山側という。すてきな洋服を見つけたのを友達に告げるとき、なになに通りの海側の店という風に表現する。

そのひそみに倣うと、わたくしは神戸の異国情緒にも海側、山側があると思う。といつてもこれは場所指定での分け方でなく、情緒の分類みたいなものと自分勝手に定めている。

海側の異国情緒は港から立ちのぼる流れる異国情緒で、ここには果てしない漂泊の想いの異国が

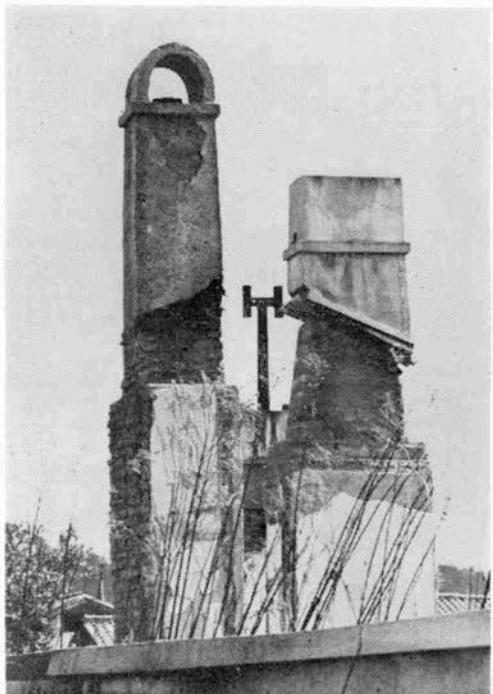
ある。大きな白鳥のような外国船が寄港して、さまざまな国の観光団や水夫が街に下りる。異国人は珍らしくない神戸でも、北歐的な、アメリカ的な雰囲気のひろがるなかで、一瞬、港は世界になる。地球の向う側から航海を終えた外国船は、ひとびとが街に散らばつて、空っぽになると、マストは寂しそうに見える。銅鑼は無聊になる。

それにくらべて山側の異国情緒には、生活の匂いがする。遠い日、異国からやって来て、神戸に棲みついた人々は、そこで火を焚き、水を迸らせて日常を持った。故国の血とおなじ温かさで神戸を愛した。いまも北野町や須磨一の谷あたりに残る異人館には、古い日からの生活感情が屋根にも壁にも感じられる。何代もの異国人が育てた温もりなのである。

明治開化のころ日本へ来た異国建築家から学び、建てたものなのであろう。鎧戸、出窓、バルコニーなど異人館の特色も時代によつてすこしづつ違つてゐる。新しい洋風建築を学ぼうとした明治の日本人の活き活きとした呼吸も感じられる。その気風は、街がそのまま海伝いに外国の街に続

く神戸にはいまもある。未知の異国の新らしいものをどんどん学んで、何でもないことのように自分のものにしてしまう自在さ、明るさは無類である。そんな明治のなつかしい異人館も年々、崩壊して数が減ってゆく。

或る秋の日、日本でも初期の異人館が、廃屋になつたまま須磨の一の谷にまだ残っているのをきて出かけて見た。昔、異人山と呼ばれた須磨一の谷二丁目に安徳帝内裡跡伝説の地がある。小公園のようになつて花壇などがあるが、そのすぐ南側のほうぼうの草むらの中にその異人館はすぐ見つかった。これはまた何と素朴な異人館だったことだろう。簡素な小家で、庇などはむしろ日本風でさえあつた。極く初期は日本的なものも取り入れて設計したのかしらとわたくしは思った。それでもバルコニーの手摺りや柱などは明らかに異国風な作りであつた。家の裏へまわると暖爐の煙突



北野町風景

はしっかりと太目にしつらえられたコンクリート作りで上部に煉瓦を置き、四角に空へ向いて立つていた。もう老いて住むことのできない廃屋となつたこの異人館も、先頃取り壊されたと伝えられたがその後まだ確かめに行っていない。亡くなられた写真家で郷土史研究者でもあつた由良昌義氏に聞いたところによるとこの館は明治五年日本で鉄道が開通した時日本政府に招かれた英國人技師の中の一人ジョン・ムルドー・ホール氏が、明治二十五年この地に建てて住んだものだという。

この廃異人館からまつすぐ山手へすこし登ると南洋植物パークがある。訪れるとき温室内には文字通り南国の植物群がいっぱい詰まっていた。この日の様子を書いたわたくしの詩『ハイビスカス』の部分にこんなのがある。

——他に観覧者は誰もいなくて半円型の大屋根の天井から銀色の光線を滲して南国の植物ばかり、もあもあと押しあつていました。ハイビスカス、ネブンセス、フレッシュジユース、ヘゴシダ、パパイヤ、ジキタリス、旅人の木、ゴムの木、タマゴの木、月下美人、印度トマト、黒ん坊唐辛子、園丁のおぢいさんがひとりだけいて花木の名前を全部教えてくれました——

炎えそな海のテーブル、脆い冰菓ともあれ神戸の異国情緒は人にも建物にも植物にも在る。わたくしが幼時に見た奇妙で新鮮で美しい神戸はいまも尚、隨所に在る。

中天に 繁忙の窓 聖夜前

35才で日本一に

地元神戸で王位就位式を行つた
内藤国雄八段に聞く



35才をピークに、と語る内藤国雄さん

地元神戸出身の将棋界の気鋭内藤国雄八段（33）が、過去十二年王位のタイトルを独占してきた大山康晴元王位を破りタイトルを奪つたのは神戸のクリーンヒットともいいうべき嬉しい話題であり、内藤新王位の「王位就位式」が十月二十八日生田区の農業会館で開かれたのでさっそくインタビューをお願いした。

— 地元神戸で王位就位式を行なわれたように、舞台で将棋を見ると

いけないとと思うんです。やる前は来てくれるかどうかと いうことが心配でした。いうのも将棋というのは自分がさすからおもしろいのであって、果して見るだけで七百人も集まるかどうかわからなかつたんです。しかし会場いっぱいになつて本当によかったです。これは将棋会のためによかったです。

— 今までに印象に残つた勝負は？

私は14才の時から将棋の世界に入つたのですが、印象に残つた勝負というのにはやはり二年半前にやつた中原君

百人の集まる大会はあります。が、みんな自分たちで将棋をさすといったもので、将棋を見るといったものにはなかつたんです。将棋の会というと参加者が将棋をさして楽しむといったものが普通だつたんですね。

だんだん将棋のプロ棋士も新聞やテレビに進出するようになつてきましたが、まあ大半が新聞の活字を通じて見てもらつてゐるわけですね。しかしそれよりも自分たちの団体で観客を動員するという方向に進まないと

との棋聖戦に勝ったこと。それと今度の大山さんとの勝負ですね。

— 勝つことはあります。勝てば健康になります。

「病気」という字はうまいことできてると思うんですけど「病は氣から」といいますね。少々身体の調子がよくても負け続けると、やれ腰が痛いとか扁桃腺が腫れてきたとかいうようになる(笑)。勝ってるうちは少々忙しくても病気にはならんもんですよ。この二、三年は病気一つしてないです。王位とつてから氣のゆるみと過労でちよつと風邪気味ですけどね(笑)

「と風邪気味ですかね（笑）」

人間万事塞翁が馬」 「禍福はあざなえる縄のごとし」つまり人間何が幸せになるかわからないということです

くらしきがまあじょり大きだと思ってるんです。40才、50才になると、先の要領ばかりよくなつてくるんでね。

ファンがよくほめてくれるんですが、僕は公約したことばかりあります。

20代のときに「30才までにタイトルをとる」といいました。そして30才で中原に勝って棋聖位を取った時、内藤会という後援会の組織ができたんです。会長が宮崎市長で、副会長が神戸新聞の光田社長なんですが、その時「今年は地元の神戸新聞の棋戦はかならず優勝する」とやる前からいってたわけです。そして相当なメンバーの中で七連勝して優勝しました。それから「大山さんはかならず一度は自分の手で負かす」といいましたが、いったことはかならず果しています。もちろん飲み屋でホラ吹いていたことは別ですが（笑）。活字になつたことはかならず守っています。

あとは35才で日本一になるということです。今、日本では将棋界に5つタイトルがあるて、そのうち3つとったら日本一になれるんです。これは「将棋世界」という雑誌の対談でしゃべって活字になつたので35才でがんばりますよ。



舞台の上で将棋の解説をする内藤王位（農業会館で）

す。将棋の場合は、簡単にいえば悪い手やったから勝つこともあるんですね。たとえば一月、二月成績が上つたがためにあと調子くずして段が下がつてしまふこともあります。

あるんです。反対に大きな勝負に負けてもあとから考えたら、あれ負けてよかったですという勝負もあるんです(笑)。一局の盤上でも序盤から苦しくて、苦しいから勝てたこともあるし、年間の成績でも年の前半悪かったからあと勝てたとかね。

私、よく35才が最高じゃないかということをいつてゐる
んです。医学的にいえば20代の後半が最高だといわれてゐる

います。(記憶力があり)創造力があり、体力がありでね。将棋の場合は経験というものが生きてきますから35才ぐらいがまあピークだと思ってるんです。40才、50才になるとそこで先の要領ばかりよくなつてくるんですね。

ヴィルジオ・モルテットさんは、ローマからやってきた彫金家。神戸の彫刻家新谷秀紀さんの家に居をおいて、イタリアの伝統芸術の粹を紹介しようと個展を開く。作品には一五世紀フィレンツェに生まれたルネサンス、古代ギリシア神話、エトルスク様式などの美術に見られる写実的な作風やフォルム。こうした伝統芸術の中に、ある細工のデリケートさをうけつけ、ヒューマニスティックな哲学を愛し、今回の来日の目的も、「イタリアの伝統美術を日本に紹介し、古い伝統を受け継いでいる自分の芸術を日本の皆さんに見てもらいたい」と語るヴィルジオ・モルテットさんだ。

——何才位からこのお仕事を始められたのですか？

モルテット ローマのガリレオ・ガリレイ建築専門学校を卒業してからです。私の父、いや私の先祖が彫金師であつたため、小さい頃から父のやっている彫金の仕事に情熱を持つていました。でも、父の仕事に魅せられて、

この道に進むことを決意したのは私が二十才の時でした。私の作品のテーマは、アモーレ（愛）です。従つて、その特長も「アモーレの感情」といえると思います。イタリアの有名な文学者、ダンテ・アリゲーリの「愛は太陽と星をも動かせしめる」というのがあります。このように、私も人生に一番大切なことはアモーレだと信じているのです。

私は小さい頃からローマの街角に多く見られる彫刻のモニュメントに魅せられ、それを私自身も作つてみたいという願望を持っておりました。そこで私は、これらのローマのモニュメントをまずコピーすることから始め、そして後に多くのことを自ら学びました。こうして徐々に、自分独自の作風を作り出したのです。例えば、バッカス（酒神）のシリーズの作品は私のオリジナル作といえるでしょう。私の好きな作家といえば、イタリアの昔の彫刻家ではレオナート・ブロツィ、現代作家では、

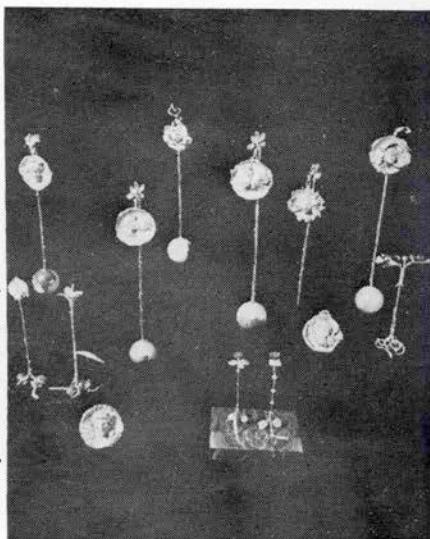


□とくさん□

神戸を訪れたイタリアの彫金・彫刻家
ヴィルジオモルテットさん

アモーレを刻む

通訳／新谷 球紀 〈彫刻家〉



モルテットさんのギリシャ神話を
テーマにしたペンダントの作品

情と優しさがいっぱいあるからです。私は日本の古代を知りたいと思っています。奈良市や京都の寺や庭園を見て回りたいですね。それによって、古代の日本を学び、近代日本を知るよう努力したいのです。日本に来て面白かったのはスシ屋、それに、日本の女性は、ヨーロッパではとても貴重がられています。東洋的な親切さと振舞いからなんでしょうかね……。

——あなたの作品の中に生かされているイタリアの伝統美術とは、特にどういったものでしよう。

モルテット 私の仕事は種々雑多なテクニックから成り立っています。ロウの使い方、鋳造、金属、大理石、メッキ等の技術等は若い頃から学ばねばなりません。そして、それが年季を積んで熟して来るものです。これらのテクニックはすべて異っていて、それらを学ぶためにはとても長い日時を要するものです。特に大切な事は、良き学校と、良き技術を持った先生を選ぶべきです。

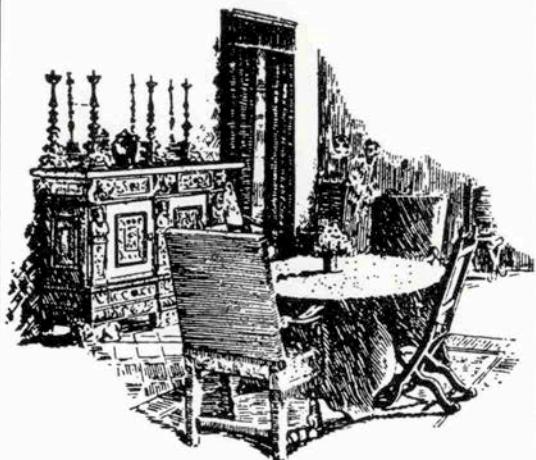
——神戸についての印象はいかがですか。

モルテット 私は日本に来てまだ一ヶ月しか経っていないせんので確かなことはいえませんが、日本は非常に興味の持てる国だと思います。ヨーロッパ人は日本という国を大変愛しているようです。フランス辺りでも日本を愛し、尊敬しています。私は日本に来て東京、大阪の未来のプロジェクトたる工業力、近代都市と古い神社・寺院とのコントラストを見ました。私は日本という国がこのようにコントラストがとても強力なので非常に興味を感じるのです。だけど、日本人は自分の感情を表に表わさないので、本心を見つけるのは大変難しい。私がもし日本人の心情を理解できたとしたら、とても素晴らしいことだと思います。なぜなら、日本人の心には、繊細な感

——ローマっ子の気質はどんなものですか？

モルテット まあ、ローマ人は他のイタリアの町の人々から愛され、また同時に憎まれているようです。なぜなら、歴史的に見ても、ローマは重要であつたし、我々ローマ人はこのことをよく知っています。こんなことは一向に気にしないのですが、やはり自分たちが最も秀れていると信じているのです。即ちオリジナルに対しても誇り高き気質を持っているのです。また、ローマ人は非常に社交的で、面倒を嫌い、単純なものを好み、生活をエンジョイします。特にアーモーレを！

欧風家具・婚礼調度



設計・創作

永田良介商店

神戸市生田区三宮町3丁目 大丸前 TEL 神戸(391)3737
(代表)

東京店・東急百貨店 (日本橋店内6階 TEL 03(221)0511
(本店(渋谷)7階 TEL 03(462)3180

工場 神戸市垂水区多聞町小東山975-35
神戸木工センター TEL (078) 706-5005 (代)



Goncharoff

さらにおいしく、
より美しくなりました。

NEW

ゴンチャロフ

ローヤルベンキャンディ ¥500～¥2000

ROYAL *ben*
Candy